



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	インターネット時代のドイツ語授業を取り巻くもの : 「教えて君」から「2ちゃんねる」まで
Author(s)	塩谷, 幸子; Shioya, Yukiko
Citation	独語独文学研究年報, 31, 115-130
Issue Date	2004-12
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/26162">https://hdl.handle.net/2115/26162</a>
Type	departmental bulletin paper
File Information	31_P115-130.pdf



# インターネット時代のドイツ語授業を取り巻くもの

## －「教えて君」から「2ちゃんねる」まで

塩谷 幸子

### 0. はじめに

ホームページの運営、すなわちサイトの管理人をしていると、ドイツ語の学習者からメール経由で様々なコメントをもらうことも多い。特に初期の頃に多かったのが、「会話中心の授業だったので文法が全然わからず、困っていたところにこのホームページを見つけた」云々のコメントであった。書き手の言い分を鵜呑みにはできないが、授業内容だけでは理解できなかったか、あるいは内容が不足していないか不安に思い、インターネットで関連事項を探そうとする学生も多いということだろう。

学生自身が授業では飽き足らないと思い、自分で勉強しようとする事自体は褒められたことである。しかしサイト運営をしながら素朴な疑問として感じるのは、授業では理解できなかったことを学生がインターネットで補おうとしていることを、担当の教師は把握しているのかどうか、ということである。インターネットで自力で学習したり、場合によっては他人のアドバイスを受けて何とか授業について行こうとしていることを、果たしてその教師は承知しているのだろうか？自分のメソッドが正しいから学生が理解できたのだ、と勘違いしてはいないだろうか？

このようなずれは今に始まったことではないのかも知れない。これは当該教師と学生の問題であり、部外者が口出しするべきではないとも言える。しかし、サイトの運営者という立場では、授業で分からないことをネットで何とかしようとしている学生たちの存在が、迷惑になることも少なくない。一例を挙げると、「〇〇について教えて下さい、お願いします！」と頼ってくる者たちである。サイトを運営・管理しているのはドイツ語教育関係者ばかりではないのであり、そのような一般の人たちに教師の指導の不備を無償で補わせるのは好ましいことではあるまい。そのことの自覚はあるだろうか？

以下の章では、「パソコンの先には血の通った人間がいる」ということを踏まえ、インターネットを利用して学習する際に留意しなければならない点について、ホームページオーナーすなわちサイト管理人としての視点を交えて論じて行くことにしたい。

## 1. インターネットでドイツ語学習

### 1.1. 生きた素材を利用して

インターネットが普及して以来、日本に居ながらにして即時にドイツ語のニュースを読

んだり、ラジオを聞いたりすることが可能になり、またドイツ語の書籍やCD、ビデオ・DVDも簡単に購入できるようになった。言うまでもなく、このことがドイツ語教育に果たした役割は大変に大きなものである。例えば時事ニュースを [Yahoo!Deutschland](http://de.yahoo.com/)<sup>1)</sup> 始め新聞社や放送局のサイト<sup>2)</sup> でリアルタイムで読むことができるだけでなく、ドイツに関係する個人（例えばスポーツ選手や俳優・歌手など）についての情報を、公式サイトやゴシップ含めたニュース<sup>3)</sup> を読んでみたいという欲求が、ドイツ語学習への動機となっている。さらに、スポーツの試合のラジオ中継を何とか聞いてみようとしている人も少なくない。

これらのマテリアルは、授業で学生に直接読ませたり聞かせたりするには難易度が高いであろうが、自由に加工しやすいという電子データの特長を生かして、注をつけたり書き換えたり、一部だけを取り出して示すなど、分かり易い形に加工することも可能である。NHKのラジオ日本オンライン<sup>4)</sup> は日本のニュースを扱っているので、いきなりドイツの情報をドイツ語で理解しようというよりは取り付き易い。

今挙げたものは、情報を黙ってダウンロードして読むという印象が強いが、インタラクティブな体験も可能である。例えば、ルフトハンザやドイツ国鉄のサイト<sup>5)</sup> で実際に時刻表や乗り継ぎを調べたりすることも可能で、授業にも応用できる<sup>6)</sup>。その他、ドイツの「アマゾン<sup>7)</sup>」の使い方の練習なども実践的な課題となるだろう。

## 1.2. 独学用ツール

ドイツ語学習用に特化したサイトも、少なからず存在する。例えば、「Deutsche Welle」のサイト内の「Deutsch lernen<sup>8)</sup>」のページは、「ゆっくり読むニュース」など、学習者のレベルや関心に応じた教材を提供している。「Lernnetz Deutsch」の Hilfsmittel のところでは、Javascript による正誤判定付きの教材もある<sup>9)</sup>。

日本のドイツ語教師たちの作成したサイトも数多くある。近年は文法解説のみでなく、学習用ツールも豊富になって来ているので、授業中あるいは放課後の課題としても使うことができるだろう<sup>10)</sup>。

学習者の利益を考えれば、内容の充実した学習用のサイトが数多く存在するのが望まし

---

1) <http://de.yahoo.com/>

2) <http://www.n-tv.de/>、<http://www.zdf.de/>、<http://www.sueddeutsche.de/> など。動画も見る事ができる。

3) <http://www.bild.t-online.de/>、<http://www.bunt.de/> など。で有名人たちの情報を得られる。

4) <http://www.nhk.or.jp/rj/>

5) <http://www.lufthansa.com/>、<http://www.bahn.de/>

6) [http://home.hiroshima-u.ac.jp/mituyos/note/c\\_note.cgi](http://home.hiroshima-u.ac.jp/mituyos/note/c_note.cgi) (吉田光演)。

7) <http://www.amazon.de/>

8) <http://www.dw-world.de/german/0,3367,2055,00.html>

9) <http://194.68.97.106/lernnetz/>。Javascript 教材は、[http://www.mare.ee/deu\\_test.html](http://www.mare.ee/deu_test.html) などにもある。

10) <http://home.hiroshima-u.ac.jp/katsuiwa/online.htm> (岩崎克己)、  
<http://www.asahi-net.or.jp/~mx2y-soy/test/index.html> (塩谷幸子) など。

い。ドイツ語教育に携わるものが、積極的にサイトを作成してマテリアルを提供して欲しいものである。サイトの作成を考えた際、技術的なハードルを心配して二の足を踏む者もいるかも知れない。しかし、特に CGI や Javascript、ダイナミック HTML 等のプログラムを駆使する必要はないのである。文法解説や練習問題などを HTML 形式で書いていくだけでも十分であろう。手始めに、授業用のサイトの作成を手がけるのも一つの方法である。以下に、授業用のサイトについて述べて行くことにする。

### 1.3. 授業用サイト作成

授業用サイトの構築と言っても、難しく考える必要はない。例えば、その日の授業メモ、使った教材（いわゆるプリント）をアップするだけでも立派なサイトを作ることができるだろう。毎週1度ないし2度の授業の記録をアップロードして行くということは、すなわち定期的に新しい情報が web 上に更新されていくと言うことである。定期的な情報の更新は、サイトを公開するに当たって最も期待されることであるので、授業日誌を作成することそのもので十分にサイト運営の必要条件を満たすことになる。その他、採用した教科書や辞書についての感想なども、他の教師たちや学生たちの参考となるだろう。その際、気負って批判点などを論じる必要はない。例えば独断と偏見に基いた気軽な一言コメント的なもので充分である。

公開するために必要な技術としては、HTML ファイルを書いて ftp ソフトでアップロードするという手順を取っても良いし、あるいは掲示板や日記の cgi を利用したり（その設定も、レンタル掲示板を利用すれば自ら行う必要はない）、最近使われるようになってきたウェブログなどで簡単に更新するのも良いだろう。筆者自身も、授業用のサイトの授業の日記はプロバイダお仕着せの掲示板を利用している<sup>11)</sup>。

掲示板（BBS）を利用して学生とやりとりすることも可能である。ただ、BBS を含め、授業用サイトを用いる際に、学生によってインターネット環境が異なることに留意する必要がある。試験の日程や提出課題などの重要な情報は、サイトや BBS だけに載せるのではなく、授業中にはっきりと学生に提示するべきである。

授業で使用したプリント類を公開するに当たって、著作権が問題になる場合もあるかも知れない。しかし、その辺がクリアになっている自作の練習問題等については、どんどん公開してもらいたいものである。これについて、「自分（及びスタッフ）が一生懸命に作ったプリントを、誰に見られるか分からないところ、しかも無料で公開するなんてことを何故しなければいけないのか」という考える者も存在する<sup>12)</sup>。とはいえ、教師側の利害や名誉

---

<sup>11)</sup> [http://hpboard2.nifty.com/cgi-bin/bbs\\_by\\_date.cgi?user\\_id=SNB51352](http://hpboard2.nifty.com/cgi-bin/bbs_by_date.cgi?user_id=SNB51352)。2002年度は同プロバイダの「日記」を利用した。

<sup>12)</sup> 筆者自身が直接に聴いた意見である。良し悪しの問題は別として、相互協力が原則のインターネットでこの手の発言（プロが無料で公開することへの抵抗感、匿名のアクセス者への嫌悪、等）をした場合は、バッシングされる確率が高いであろう。

と学生たち学ぶ者の利益のどちらを優先させるべきかと言えば、言うまでもなく学習者の利益を考えるべきである。どうしても担当学生ではない他者にアクセスされるのに抵抗があれば、パスワード制を導入するなどの方法もある。

また、昨今では使用教科書を含めたシラバスを Web で公開していることも多い。大学によっては試験問題やその解答をオンラインで公開し、指導することを推奨しているところもある<sup>13)</sup>。どのような出題がなされるかなどの情報が蓄積していくので、当然のことではあるが、毎年同じ出題をするなどは避けたほうが良いであろう。

#### 1.4. 留意すべき点

あるテーマについてサイトを運営しているのは、必ずしもその道の専門家に限らず、趣味で調べたことなどを発表している人も多いので、その学術的信憑性は保証される訳ではない。事実や資料に基かない話を載せている人も多いだろう。逆に、たとえ専門家が作っているサイトでも、定期的な更新、掲示板の運営など、サイトとしての魅力があるかどうかはまた別物で、役に立たない場合もあろう。一口にインターネットで得られる情報と言っても、玉石混交であるのは意識しておくべきである。場合によっては意図的に「デマ情報」を載せる者もいるかも知れない。

その他、注意すべきこととしては、盗用や剽窃、俗に言う「パクリ」がある。サイトを利用して調べたこと、あるいはインターネット経由で質問した情報を、出所を明記せずにレポート等に自分の意見として書くことである。悪気がない場合もあるかも知れないが、重大なマナー違反である。自分の考えと他人の考えは明確に区別するべきである。

インターネットが普及し始めた当初は、インターネットでドイツ語学習と言えば、想定されていたのはこれまでこの章で述べてきたことくらいであった。しかし、ブロードバンド時代を迎えた今日、インターネットを利用したドイツ語の指導を語るにはこれだけでは不十分である。以下の章で、この範疇を超えた事柄を取り上げてみたい。

## 2. BBS とドイツ語学習

### 2.1. BBS の大きな役割

日本のサイトに特徴的なのは、掲示板と日記であると言われる<sup>14)</sup>。日本で掲示板の類が発達していることに慣れてみると、日本の Yahoo! の掲示板とドイツのそれを比べて見た際に、ドイツの掲示板の静かさに驚かされることだろう<sup>15)</sup>。

---

<sup>13)</sup> 北海道東海大学「おさらいセッション」。 <http://www.rihep-htokai.jp/dls/dls/index.htm>

<sup>14)</sup> 後述の「2ちゃんねる」の影響が大きい。井上(2003)、鈴木(2003)参照。

<sup>15)</sup> 「Yahoo! 掲示板」 <http://messages.yahoo.co.jp/index.html> と「Yahoo! Forum」 <http://de.messages.yahoo.com/index.html> を比べると、ドイツの「Yahoo! Forum」では発言数そのものが少なく、いわゆる荒らし書き込みも少ないことが明らかである。

このいわゆる掲示板、あるいは BBS（場合によって電子会議室、フォーラムなどとも言われる）は、要するに、アクセスした者が大抵の場合自由にコメントを送信して発言（書き込み）できるところで<sup>16)</sup>、またそれに対する返信が送られることもある。サイトの中身を読むだけだったら、一方通行のアクセスに過ぎないが、掲示板では双方向のインタラクティブなやり取りが可能である。サイトにアクセスして来た者同士の交流の場であるとか、質疑応答などにも使える。

掲示板でのやり取りは、一見メールのやり取りと似ており、メールと掲示板との違いをあまり認識していない者もいるようであるが、通常掲示板でのやり取りは、その掲示板に書き込んだことのない者も読むことが可能である。もちろん、誰に読まれているかは分からない<sup>17)</sup>。しかも、そのやり取りは記録（ログ）に残っていて、リアルタイムでなくても何日か後に、場合によっては何年もたってから他人の目に触れる可能性がある<sup>18)</sup>。

BBS は大変に便利なのだが、しかしながらトラブルも頻発する。分かり易く言うと参加者同士の喧嘩である。これは、「顔の見えない相手とのやり取り」が原因であると言われることも多い。この点について、相手の表情がわからない無味乾燥な文字だけのやりとりの難しさと解釈されることも多いが、筆者の体験する限り、社会的地位や性別などの立場の違いが見えないことに由来する場合も多いようである。例えば、その道の権威と自負している人が、（その人の考える）応分の敬意を払ってもらえず、若い門外漢に素人呼ばわりされることもあるということの抵抗感である。また、学生（高校生・中学生）だからどうこうという感覚は、「(パソコン・インターネットの) 初心者なのだ」とわざわざ断る人と同じく、学生だから（初心者だから）ちょっとくらいのがままや過ちは大目に見て欲しいという甘えと受け取られる可能性もあり、当然のことながら学生以外の者にとってみれば鬱陶しいだけである。例を挙げると、試験があるから大変だ、レポートで切羽詰っている云々は、他の人にしてみればどうでもよいことなのだ。自分の常識は他人の常識とは異なるということを肝に銘じておくべきだろう。

次に、トラブルの元になりやすい掲示板での質問について述べてみたい。

## 2.2. 「教えて君」は嫌われる

「ホームページを持っている」と言うと、「それではいろいろな人の質問に答えているの

---

<sup>16)</sup> パスワード制のところもある。Yahoo!掲示板などでは、書き込む際にあらかじめ登録しておいた ID が必要である。

<sup>17)</sup> メーリングリストでも書く人と読む人が存在するが、メーリングリストは参加メンバーが限定されている閉じた世界であるのに対し、掲示板に書かれたコメントは ID 認証等がない場合にはすべての人に開かれていると言える。

<sup>18)</sup> 書き込み数が増えると古いものから削除されるシステムの掲示板でも、発言が Google (<http://www.google.co.jp/>) のキャッシュに残っていたり、極端な話、ログを自分のパソコンにローカル保存している者もいるかも知れないのである。

だろう」と反応されることも多い。しかしそれは、「(ホームページを持っているなら)何を宣伝しているのか?」という反応と同じく、誤解である場合が多い。少なくとも、サイトを持っている者すべてが万人の質問に答えるためにサイトを開設しているわけではなく、掲示板を設置しているわけでもない。

掲示板でよく見かける「〇〇について教えてください」等の書き込みは、サイトの管理人(運営者)にとっては質問者が想像するよりもものすごく不快なものである。筆者のサイト始め、インターネットのドイツ語関係のサイトには、「教えてください!! 『ずっと一緒にいようね』ってドイツ語でどんなに書くんですか?<sup>19)</sup>」「大学の卒論でドイツ料理について調べるのですが、なかなかよい文献が見つかりません。どなたか、ドイツ料理の特徴や歴史が書いてある文献教えてください!!お願いします!!<sup>20)</sup>」「カフカを読んだ事がある方、助けて下さい<sup>21)</sup>」「医学部でドイツ語学が意義について、の題でドイツ語のレポート試験あるんだが、参考ネタ無いですか?<sup>22)</sup>」など、俗に言う「教えて君」たちによる書き込みがあふれ、しかも学生が書いたと思しきものも数多く見受けられる。これらの一読して明らかに身勝手な要求に対しては通常あまり良い顔をされない。理由として考えられるのは、1) 課題を自力でやらずに他人に丸投げするという態度。しかも、期限を切ったりしている場合もある(〇時までにはお願いします、等)こと、2) その掲示板の話題にふさわしくない書き方。掲示板の参加者たちがある話題で盛り上がっている時に、「一見の客」が話の流れをぶち切ってしまう。また、顔文字などが使われているのが不快である<sup>23)</sup>、などである。

これらの個人のサイトでの「教えて君<sup>24)</sup>」による書き込みにどのように対処するかというのは、掲示板を運営している管理人による。質問した者の望むとおりに答えを教えてください場合もないわけでないが、婉曲にあるいは露骨に断るとか、返信(レス)を付けずに黙殺する<sup>25)</sup>とか、場合によっては、発言削除の上、アクセス禁止措置を取る管理人もいる<sup>26)</sup>。

---

19) <http://german.milkcafe.to/bbs/yybbs/yybbs.cgi> 「街角の喫茶店」 「電腦独語教室」 付属の掲示板。

20) <http://6101.teacup.com/tokutoku/bbs> 「私的思い入れのドイツ」 内掲示板。

21) <http://messages.yahoo.co.jp/bbs?.mm=GN&action=m&board=1835159&tid=a5aba5ua5aba4rfia4sa4c0bbva4aca4a2a4kjfda1a2bdua41a4f2bca45a4a4&sid=1835159&mid=1>

22) <http://academy3.2ch.net/test/read.cgi/gogaku/1087294926/642>

23) 顔文字については、顔の見えない対話の表情を補うものとして推奨される場合もあるが、顔文字そのものが嫌われる場合もある。「2ちゃんねる」特有の顔文字や、携帯電話でのメールによく見られるような顔文字・記号をちりばめて一般の掲示板に書き込むのは、通常場違いとみなされるであろう。

24) <http://www.media-k.co.jp/jiten/wiki.cgi?%A1%E3%A4%AA%A1%E4#i28>によると、「自分で調べたり探したりせずに、なんでもすぐ人に聞く人のこと」とある。詳しくは、キーワードを「教えて君」に設定して google で検索されたい。

25) メールの場合も含め、返事のないことをインターネットの顔の見えないやり取りでの人間関係の希薄さ云々と関連付けるコラムをたまに新聞等で見たりもするが、そうとは限

もちろん質問を受け付けている掲示板もあり、すべての質問が嫌がられるわけではないが、それでも、そのサイトに書かれていることをろくに読まずに質問する（例：ドイツの面積・人口・首都を載せているサイトの掲示板に来て、「ドイツの首都や面積を教えてください」と質問するなど）、そしてマルチポスト（複数の掲示板に同じ内容の発言を書き込む）のは、マナー違反であろう。質問する前に google 等であらかじめ検索するくらいの手間はかけておくべきである。そして、何故このような質問をするのかと言う背景について説明する必要があるだろう<sup>27)</sup>。

今まで一方的に質問する者を責めるようなことを書いてきたが、特にドイツ語に関する質問をする学生のマナーについては、ドイツ語教育に携わる教師側にも反省点はあるかも知れない。それについて論じる前に、以下で匿名掲示板について触れておく。

### 2.3. 匿名掲示板について

ここで言う匿名掲示板とは、主に「2ちゃんねる<sup>28)</sup>」のことであるが、その他「Yahoo! 掲示板」のことも含めて取り上げる。これらの巨大な掲示板サイトは、例えばドイツ語教師の運営しているサイトに付属する掲示板とは異なり、様々なカテゴリーに分類される多様なテーマを擁する掲示板の集合体である。参加者が作成したスレッド（「Yahoo! 掲示板」ではトピック）を仕切る者はいたとしても、個人サイトの掲示板の管理人の如く、発言削除等の権限まで持つものではない。

この巨大掲示板について、匿名性ということがしばしば話題になる。それはインターネットでのやりとりすべてに共通していることではあるが、多くの個人サイトの掲示板では、サイト管理人は、場合によってはその他のアクセスして来た者たちも、書き込んだ人たちについて送信元情報などを把握できるものである<sup>29)</sup>。しかし「2ちゃんねる」や「Yahoo! 掲示板」では、実名や職業等の個人情報はもとより、送信元情報も伏せられるので、トピックの作成者やその他の参加者には、原則として誰が書き込んでいるのか、すなわち発言者 A と B が本当に他人なのかということが判別し難い。とりわけ、すべての発言者が原則として同じハンドルネームを名乗る「2ちゃんねる」ではなおさらである<sup>30)</sup>。

---

らない。一つには、むやみに質問することがマナー違反であり、また、不快・場違いな書き込みに対し、コメントすることそのものを避けるのが掲示板に参加する上での身の施し方の一つである（不愉快発言に対し、正義感に駆られて反論したりするのは、それも同じく不愉快発言と見なされる場合があることに留意されたい）。

<sup>28)</sup> 特定の訪問者について、そのサイトにアクセスできないように処置すること。

<sup>27)</sup> 念のためであるが、掲示板でなくメールであれこれ質問してくるのも、やはり失礼である。黙殺されても当然であろう。筆者の感覚では、メールで返事を要求されるよりは、掲示板に書き込まれた方がまだましかと思う。

<sup>28)</sup> <http://www.2ch.net/>

<sup>29)</sup> それを知らずに一人二役を試みる例もたまにある。筆者のサイトでも、同じ送信元から異なるハンドルネームを用いて複数の質問を書き込んできた例があった。

<sup>30)</sup> 「2ちゃんねる」でも ID が導入されたりしているが、だからと言ってある複数の発言が

ここで詳しくは触れないが、「2ちゃんねる」では、時に犯罪予告がなされたり、事件関係者の顔写真・個人情報公開されたり、差別用語が飛び交い、独特の言い回しや顔文字・アスキーアート<sup>31)</sup>が使われると言うわけで、悪いイメージを持っている者も多いだろう。「2ちゃんねる」にアクセスしていると公言するのは憚られるイメージがある。

そのように悪名高い掲示板であるが、ドイツ語関連のテーマでスレッドがいくつも作られている。「教えて君」も来るし、教師の悪口が個人を特定できる形で書かれていたりもする。話の合間に罵倒や中傷誹謗が書かれていることも多い。その一方で、かなりレベルの高いやり取りもなされており、辞書や参考書の評判も載っている。授業で疑問に思ったこと、授業で扱うこととは異なることが学びたいなどのコメントもあり、その内容を100%信頼することはできないとしても、ある意味学習者の生の声を書き込まれている<sup>32)</sup>。

また、あることを知ろうとしてキーワードを設定し、検索かけると比較的上位にヒットすることが多い。それと知らずに、ページを開いてしまうこともあるだろう。

インターネットとは、電子百科事典でもなければ、機械が自動的に解答してくれるものでもない。サイトを運営しているのは生身の人間（大抵はサイト運営に専念しているわけではなく、他に本業がある）であり、掲示板に集うのは、年齢も立場も性別も国籍も違う人たちである。現実世界では遠慮したり取返して口にしないところまでむき出しになるかも知れない、人間と人間との生々しいやり取りが存在する。筆者の経験では、先に挙げた理由であからさまには言わないものの、学生の中で「2ちゃんねる」にアクセスした経験がある、あるいはその存在を知っている者は、少なからずいるように思われる。インターネットを授業に利用したいと考えるならなおさら、このような匿名掲示板のようなところが存在し、学生にとって案外身近なところであることは心得ておくべきである。自分ではそのようなサイトにアクセスするつもりがなくても、自分の運営するサイトのアドレスが「2ちゃんねる」に書き込まれる可能性もあるのだ。インターネットにアクセスする限り、決して無縁ではいられない。

### 3. インターネット時代のドイツ語授業のあり方

#### 3.1. 授業はインターネットに晒されている

仮にクラスに一人でもインターネット接続している携帯電話を持っている学生がいれば（昨今では、かなりの割合で所持していることだろう）、その授業は、既にインターネット

---

本当に他人の発言なのか、サイトの訪問者が証明できるものではない。

<sup>31)</sup> 文字を組み合わせて作成した絵のこと。以下のアドレス参照。

<http://e-words.jp/w/E382A2E382B9E382ADE383BCE382A2E383BCE38388.html>

<sup>32)</sup> <http://academy3.2ch.net/test/read.cgi/gogaku/> 「外国語（英語除く）板」など。その他、例えば「まちBBS」（<http://www.machi.to/>）では大学ごとの情報を交換するスレッドも存在する（道内の大学についてはほぼ網羅している）。

の中に存在していると言える。常にインターネットに晒されていると言っても良いだろう。授業が教室と言う密室の中で完結しているのではなく、インターネットにも開かれているなら、インターネットを通じて誰かとコミュニケーションする時と同じくらいの慎重さで学生と接する必要があると言っても決して大げさではない。

学生たちにとって、ドイツに関する情報は、インターネット普及以前は教師のもたらす情報がほとんどという側面があったであろう。しかし昨今では、ドイツ情報はドイツ語教師からのみ聞くことができるわけではない。インターネットに接続すれば、観光局公式サイト等からのみでなく、ドイツ旅行した人や駐在経験のある人のサイトおよび掲示板で知ることができる。

ドイツ語学習についても、担当教師が良いと思う目標や教科書、教授法を設定しても、それが学生にとってすべての情報とはならない。シラバスを Web 上で公開している大学も多く、アクセスすれば、他の大学ではどのような授業が行われているのか簡単に知ることができる。たまたま同じ教科書を使っている場合でも、進度が違ったり、他の教科書と組み合わせたりする場合もあり得る。筆者が使ったことのある教科書についても、先に挙げた例以外でも著者の悪口が掲示板に書いてあったり、また、それだけでは悪意が感じられるものではないが、シラバスに「この教科書だけでは不足する点があるので別教材で補う」など、読みようによっては当該教科書に不備があるようにも受け取れるコメントが付けられていたりしたことがあった。教師の立場としてこれらの情報に接すれば、参考になることも多いのだが、同時に、その教科書を用いて学習している学生も簡単に知ることができる情報である<sup>33)</sup>。

このような情報を知られないようにしようと、学生にインターネットへのアクセスを禁じたりするのは時代の流れに反するし、それ以前に不可能であろう。掲示板等に情報を書かれないようにすると言うのも無理がある。むしろ、学生がインターネットにあふれる情報を知っていることを前提にして、学生と向き合うことが必要である。

### 3.2. 授業の説明責任

実用的なドイツ語と言え、当然、話せることであるとの考えが示されることも多い。しかし、インターネットでドイツ語に触れる場合、求められるドイツ語の能力としては、まずはニュース等が読めること、そしてニュースやスポーツ実況が聞けること、そしてメールやチャットのやり取りができることで、声に出して誰かと話すことの順位は圧倒的に低いのである。その意味では、会話を中心とし、ドイツの学生生活をテーマとした教科書を用いた授業は、学習者たちのニーズにそぐわない、時代遅れの授業であるとなってしまう可能性もある。

インターネットでのニーズと言え、教えて欲しいことがある、と掲示板に書き込まれ

---

<sup>33)</sup> その他、インターネット版「鬼仏表」や「まち BBS」などでの教師自身への評価も見られる。

ることとして、宿題以外に多いのが、ある言葉の断片をドイツ語に訳して欲しいというものである。例えば、「夜に浮かぶ虹」「白薔薇の参謀」等々の文言である。理由を聞いてみると、ゲームや小説で使うということである<sup>34)</sup>。昨今のドイツ語初歩のクラスでは形容詞の格変化や現在分詞などは扱われないことも多く、これらのことを文法的知識を初心者が自力で駆使してドイツ語訳するのは難しいであろう。「教えて君」化するのも無理ないことなのかも知れない。

だからと言って、そのような事情を考慮して、大学のドイツ語の初歩の授業の到達目標に、芸能人のゴシップ記事を読めるようにすること、サッカーの実況を聞けるようにすること、ゲームや小説で使うドイツ語を表現できるようになること、そしてそれらに必要な文法や語彙の学習を設定するのが正しい授業のあり方かと言えば、それはまた別の問題であろう。ドイツ語学習者のニーズはあまりにも多様であるし、また、留意しなければならないことであるが、インターネットで見られる現象が必ずしも現実世界と重なると言うわけでもない。インターネットと現実の社会との距離はしっかり見極めないとならない。

ただ、ドイツ語教育に携わるものとしては、そのような需要があることは知っておいても良いだろう。情報が溢れる今日では、読むこと、聞くこと、スキルが望まれ、また、ドイツ語を発したいと言う場合には、必ずしも他人と文章を会話したいとは限らず、単語、あるいは句レベルのことを言ったり書いたりしたいのだという実態も把握しておきたいものである。その上で、授業で何を扱うべきかを考える必要があるだろう。すなわち、何故この教材・メソッドで授業を行うのかということについての説明責任である。

説明責任と言っても、難しく考える必要はないと思うが、例えばドイツ語会話を身に付けさせることが、あるいは「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能をバランスよく身に付けさせるのがドイツ語の習得にとって大切であるなら、何故それが必要なのか — たとえ、需要から外れているように見えても — ということについて、簡単にでも説明できるようにしておくべきである。教師によっては、自分の示した教材・メソッドでドイツ語を学べば十分で、他の教材は必要ない、と考える者もいるようであるが、それでは多様な動機や関心からドイツ語を学びたいと思う人の数多くのニーズには答えられないであろう。「このような授業は楽しいから」「だって当然これこれのことは大事であるに決っている」などという主観の押し付けだけでは説得力を欠く。

そのためには、授業で扱える範囲はどの程度なのかということ、つまり場合によっては授業の限界をも学生に示すことが必要になる場合もあろう。大学のレベル等の事情もあり、一概には言えないかも知れないが、「ここで取り上げるのはこの範囲まで」とはっきり示す方が、学生に対してむしろ誠実であると思われる。

---

34) 「街角の喫茶店」より。ここでは詳しくは触れないが、日本のサブカルチャー（ゲーム、アニメ、同人誌くらいの意味である）における「ドイツ的なもの」への憧れという実態があるかと思われる。

### 3.3. 「教えて君」の映し出すもの

「〇〇ってなんと言う意味ですか、教えて下さい！」と掲示板に書き込みしてくる者に、当然のことながら「何故自分で辞書を引かないのか？」という質問がなされることもしばしばである。その際に「辞書を引くことを思いつかなかった」「辞書を引けば良いと知らなかった」という返事が返ってくることも多い（あるいは、引き方が分からない、など）。発言者が本当に辞書を引くことを知らなかったのかどうかは不明だが、少なくとも辞書を引くことを知らなかったと言い訳するのは特に恥ずかしくもないと言うことなのだろう。

先に述べたように、自分の手を動かさずにただ質問してくると言う彼らの態度に問題はあるのだが、ところですべてのドイツ語教師たちが、授業で辞書の引き方をきっちり教えているかと言えば、そうでもないかも知れない。昨今の教科書では、未知の単語をいちいち辞書で調べさせるよりも、注や単語帳を参照させるものも多い。辞書を引くことだけにむやみに時間を費やすことをしないというメリットがあるのは理解できる。しかし、仮に授業で教師が「辞書を引く必要はない」と言い切ってしまうと、学生たちはどのように解釈するだろうか。たとえその教師が「いつもいつも辞書に頼るのは良くない、自分で意味を推定するのも大切」くらいの意味でそう言ったとしても、それこそ掲示板でのやり取りのように、聞き手の方でそこまで発言の意図を汲んでくれる保証はない。ひょっとすると、「いかなる時も辞書は引かなくて良いのだ」と都合よく解釈されたかも知れない。筆者の経験でも、相当にレベルの高い大学でも、半ば強制しないと自分で手を動かして辞書に当たらない者もいたりする。辞書を引くことくらいできるだろう、少なくとも思いつくだろうと教師サイドで勝手に思い込むのは間違いである。

また、ドイツ系掲示板で、「文法は大事でないのだから、単語を適当に言ったらドイツ人はこちらの言いたいことを完璧に理解してくれるのですよね？」という発言を見たことがあった<sup>35)</sup>。なるほど、「文法は大切ではない」式の発言をするドイツ語教師もいるが、確かに、文法的知識が必要とされないのに、主語によって動詞の語尾を変えたり、語順に注意しなければドイツ人に正しく理解されないというのは、話が違うと言うことなのかも知れない。教師の側では、「話す時には文法的に間違ったらどうしようなどと思わず、臆せず話してみよう」くらいの意味で言っているのであって、人称変化や格変化は間違わないように練習させているつもりなのであろう。しかしそれなら、その意図を分かりやすく学生に伝える努力が必要である。

辞書を引かせるとか、文法練習に力点を置くという授業は、何の工夫もない前時代的な授業を行っているような印象があり、教師としては、つい学生受けを狙って「つまらない授業ではない楽しく身に付くように工夫された授業」をしようと思いがちである。しかし、本当に必要なことであれば、たとえ一見無味乾燥に思われることであっても授業で扱うべきである。教師が批判や授業評価を恐れて口当たりの良いことを言っている間に、学生は

---

<sup>35)</sup> 「私的ドイツ思い入れ」内掲示板より。

掲示板等から「文法がデタラメだとドイツ人から軽蔑される」「会話中心の授業だったら自分で文法は勉強しておくべき」などという意見<sup>36)</sup>を仕入れる可能性があるのだ。そのような時代に、工夫された授業だという評価が欲しいから受けの悪いことは扱わない、でも本当のところはできなければ困るのだから学生の方でそのような点は察して補って欲しい、というのでは学生の信頼を得られないだろう。

### 3.4. むき出しな個人情報

インターネットに授業が直結している以上、授業が様々な情報に取り囲まれるだけでなく、授業で扱われたことがインターネットを通じて漏れて行くことも考慮しなければならない。テキストや講義内容、授業の感想・教師の評判などに加え、学生の個人情報についても配慮すべきである。学生が書いた文章をインターネット上に公開する場合など、個人が特定されるような内容が含まれていないかどうか、チェックするのは当然のことであるが、それ以外の通常の授業でも、個人情報に触れる場合があることがある。

多くの教科書では、出身や住所、兄弟の数を尋ねる質問が載っていて、学生同士で質問し合うように設定されている。ものによっては、電話番号や父母の職業について尋ねるものもある。これらの個人的な事柄に触れる質問は、充分プライバシーの侵害となり得るものである<sup>37)</sup>。外国語の授業でお決まりの質問であるという暗黙の了解があるから、受け入れられているのかも知れないが<sup>38)</sup>、インターネットでこれらの個人情報がどのように取り扱われているか、匿名巨大掲示板などでその一片でも窺い知れば、授業でいかに無防備に個人情報を取り沙汰されているか、察することだろう<sup>39)</sup>。

もちろん、個人情報に抵触する可能性のある例文を授業で練習しないのが良いというつもりはない。インターネットの実情がどうであれ、例えば *Woher kommen Sie?* を知らなくてよいと短絡的に結論付ける必要はない。

この点については、必ずしも本当のことを言わなくてもよいと言うことをさりげなく示しておくなどするのもひとつの方法かと思われる<sup>40)</sup>。学生に嘘をつかれるのに抵抗がある教

36) 「私的ドイツ思い出」内掲示板、「外国語（英語除く）板」（「2ちゃんねる」）より。

言うまでもなく、これらの意見が必ずしも正しいとは限らない。

37) 筆者自身について言えば、インターネット云々に関わらず、この手の質問を学生にするのに抵抗がある。話を単純化して言えば、父親のいない人がいるかも知れないのに「あなたの父親の職業は？」と尋ねたりする場合である。もちろん、そのようなことについての受け取り方には個人差もあるし、またドイツ人の感覚と日本人の感覚とでは差異があるので、一概に言えるものではないだろう。

38) ドイツ語の授業ではないが、外国語学習とプライバシーについてこのようなやり取りも参考になる。<http://www.yomiuri.co.jp/komachi/reader/200109/2001092900002.htm>

39) インターネットで、特に「2ちゃんねる」などで飛び交う出身による差別等のことを想起されたい。これらのことについて、筆者は学生から教科書の不用意さを指摘されたことがある。

40) 教科書によっては、個人的な質問について、「本当のことを言わなくても構わない」な

師もいるようであるが、授業の目的は、学生のプライバシーを言わせることではなく、ドイツ語のスキルを磨くのが目的なのだという基本を忘れてはならない。

### 3.5. 「インターネットで調べよう」！？

たまに、教科書の指導用マニュアルなどに、「〇〇のことについて、学生にインターネットで調べさせてみよう」云々という勧めが載っている。設問自体、大変に大雑把な指示であり、具体的にどのような作業が必要であるのかについての言及が欲しいところであるが、サイト管理人の立場で発言すると、このような提案をした者は、果たして本当にインターネットの事情を弁えているのか、疑問を覚えるのである。

掲示板には時折、「実は大学の宿題で、インターネットを利用して、ドイツと日本の違いについて調べろ！という課題を出されたんです。(…中略…)何かアドバイスを頂けたらと思っています。宜しくお願いします。<sup>41)</sup>」のような書き込みが見られる。これはたまたま拙サイトに書き込まれたものであり、筆者がドイツ語教師をしていることをサイトの常連の人たちは知っており、その中には大学関係者もいる訳だが、インターネットの掲示板に書き込まれている以上、回答者を学生の指導を専門に行う者に限定したものではあるまい。答えてくれれば誰でも良いのである。宿題の手伝いを手当たり次第にさせようという、学生側の意識にも問題がないわけではないが、それ以上に問題にすべきことは、出題者が学生の課題を、結果として必ずしもゲルマニスティックの教育を受けているとは限らない、ドイツ駐在経験者やその家族、あるいはドイツに行ったことがあるかどうかもわからない会社員や主婦等に手伝わせるのを容認していることである。

教科書の執筆者、もしくは実際の教室での出題者は、あるテーマについて学生自身の手を使って調べさせようと思い、学生たちが興味を持ちやすいインターネットというツールに飛び付いた程度の軽い気持ちであっただろうとは思ふ。あるいはインターネットのサイトと言ったときに、何かの専門家の作った公式サイトのものだけのことを想定し、いわゆる「素人」の作った学術的ではないサイトのことは無意識のうちに除外していたのかも知れない。確かに、1.4.で述べたように、内容に信憑性が乏しく、また書かれたことの典拠が明らかにされていないサイトも数多く存在するのも事実である。しかしながら、インターネット上にあるサイトの多くは、そのようなサイトなのであり、google 等のサーチエンジンは、そのようなサイトをも検索結果として出してくる。

もっとも、サイトの優劣と、サイトマスターがその分野の専門教育を受けたかどうかとは無関係ではある。サイトの運営面についてもそうであるし、ドイツ語教師よりもドイツ事情に通じていたり、ドイツ語能力のある人もたくさんいるに違いない。とはいえ、本来ならば担当の教師がすべき学生の指導を、部外者（多くはアマチュアである）に丸投げするのは教師としての義務を放棄したことにならないだろうか。

---

どと注を入れているものもある。その点では大変に使い勝手が良い。

41)「街角の喫茶店」より。

出題者の教師自身が自分の体験としてインターネットにアクセスし、何か情報を得ようと google など検索したことがあれば、検索結果に出てくるのが必ずしも内容の整ったサイトだけではないこと、そしてキーワードの設定によっては数百や数千のサイトが表示され、とても調べきれないであろうこと、検索結果には当然、「2ちゃんねる」のログも含まれるだろうことは、必ず経験していることであろう。そうでなくても、出題者自身が実際に、課題に関係する語をキーワードにして検証してみれば分かることである。

そして、サイト付属の掲示板を覗いたことがあれば、掲示板の運営者たちが「教えて君」に頭を悩ませていることも見て取れる筈である。そのような中で、(インターネットを使う使わないに関わらず)「〇〇について調べてみよう」という課題を出せば、それをそのまま「〇〇について教えてください。(宿題なんです)」と投稿する者が出るだろうことは、当然予測されることである。教科書の執筆者や教師がインターネットについての理解が浅い状態で、「インターネットで調べさせよう」などと勧めるのはあまりにも無責任である。何よりも他人の迷惑になっているのである。

インターネットを利用して学生に何かさせたいと言う場合には、もっと具体的に、「どのサイトで何を調べる」ということを明確に示す必要があるだろう。あるいは、学生の作文やレポートを授業用サイトで発表するという課題が適切かと思われる<sup>42)</sup>。

インターネットでの作法(ネチケット)、ネットに溢れる情報との距離の取り方などは、掲示板のログを読むことも含めてインターネットのサイトを定期的にチェックすること、そしてできれば自分でサイトを運営することで経験を積むと、加減が分かるようになるだろう。そのためにも、学習用サイトなどを作ってみることを勧めるのである。

#### 4. 終わりに

サイト管理人としての経験は、授業の運営にも役立つものである。例えば、自分のサイトについて、ほめ言葉には喜び、けなされると反発するという態度を露わにするのは、サイト運営上あまり得策ではない。俗に言う「痛い管理人」呼ばわりされるであろう。むしろ、お世辞(場合によってははからかい)の混じっているかも知れない肯定的評価に有頂天にならず、批判(時に悪口・言いがかり)に動じない管理人のサイトの方が、安心して出入りできるという傾向がある。

これは、いわゆる授業評価アンケートや授業の感想を学生に書いてもらった時も同じであろう。筆者自身の経験でも、学生に授業中ビデオを見せた時の感想を書かせた際、「このような授業はよく工夫されていてとても素晴らしいと思った」などという回答もあったが、一見褒めているように見えて、しかし教師側にとっては全く得ることのないコメントである(学生が何を言いたかったのは不明である)。それよりも、「(「ドイツ語会話」ではなく)

---

<sup>42)</sup> 1.1.参照。1.2.で挙げたドイツ語教師たちによるサイトに載せられている課題が参考になるだろう。

映画の方が良かったのに」などというコメントは、授業への不満を表したものと読めるが、よほどそのようなコメントの方が、教師にとっては役に立つのである。

このような場合に、自分のやり方を肯定するために「学生はこのやり方で良いと言っている」などと主張すると、現実社会で何も言われなくても、遠慮のないインターネットの掲示板では、笑い者になるかも知れない。そもそも、その「学生が良いと言っている」ことでさえ、本心からとは限らないのだ。その辺の機微は、掲示板のやり取り等から学ぶことができる。教室はもはや閉じた世界ではなく、いつもインターネットに通じていることを念頭において、授業に臨みたいものである。

## 5. 参考文献

- 井上トシユキ (2003): 『2ちゃんねるの宣言—挑発するメディア』 文春文庫 PLUS
- Iwasaki, Katumi (2001): 「Internet's Role in German Language Education in Japan」  
『広島外国語教育研究』第4号、107-124.
- 栗山次郎郎(2002): 『日本語、中国語、韓国語で使用可能なWWW上のマルチメディア対応ドイツ語教材の構築』 平成11年度～平成13年度 科学研究費補助金研究成果報告書
- 塩谷幸子 (2001a): 「ドイツ語学習におけるサイト利用について」 『FREIRAUME NUTZEN - NEUE WEGE SUCHEN METHODIK UND LEISTUNGSMESSUNG VON DAF IN JAPAN ドイツ語教育の新展開 — 学習者中心の教育に向けて』 国際広報メディア研究科・言語文化部研究叢書 44 H. ナロック (Heiko Narrog) / B. フックス (Birgit Fuchs) 編、国際広報メディア研究科・言語文化部 2001年、69-86.
- 塩谷幸子 (2001b): 「ドイツ語の授業におけるインターネットの活用」『所報 第13号』 北海道東海大学教育開発センター 2001年、55-63.
- 鈴木淳史 (2003): 『美しい日本の掲示板—インターネット掲示板の文化論』 洋泉社
- 高本條治 (1993): 「パソコン通信におけるフェイスマークの機能」『日本語学』(明治書院) 1993年12月号、63-74.
- 田中俊明・田畑義之 (2000): 『マルチメディア時代のドイツ語教育』 九州大学出版会
- 吉田光演 (2000): 「ホームページを利用したドイツ語教育の実践」『広島外国語教育研究』第3号、93-108.

## Was soll man in der Internetzeit beim Deutschunterricht beachten?

**Yukiko SHIOYA**

Heutzutage kann man viele Materialien für Deutschunterricht vom Internet herunterladen. Sowohl Nachrichten, Webradio, als auch die Materialien, die Deutschlehrer selbst erstellt haben, sind verfügbar.

Es wäre besser, dass noch viele Deutschlehrer ihre Materialien, z.B. Übungen, Erklärungen der Grammatik aktiv ins Internet hochladen sollen. Ich als Webmeisterin würde vorschlagen, dass man damit anfängt, ein Tagebuch für den Unterricht auf der Seite zu führen. Es muss für die Studenten nützlich sein, und ohne Kenntnis der HTML kann man mit Hilfe der Tagebuchprogramme oder Weblogs leicht ein Tagebuch schreiben.

Auf dem Internet, besonders auf den japanischen Seiten, spielen die Foren, auf denen man mit anderen Besuchern kommunizieren kann, eine wichtige Rolle. Nicht nur auf den Seiten von Deutschlehrer und von denen, die an Deutschland oder an der deutschen Sprache Interesse haben, sondern auch auf den BBSs wie "Yahoo! Forum" oder "2 channel" (charakteristisch ist die völlige Anonymität) werden viele Pinboards über die deutsche Sprache angelegt.

Während die Studenten auf dem BBS andere Deutschlernenden kennen lernen wollen und verschiedene Themen besprechen können, besteht die Gefahr, dass die Studenten, die die Aufgaben bekommen, andere Leute um die Antwort bitten, ohne selbst ihre Aufgaben zu lösen. Die Lehrer müssen beim Unterricht den Studenten sozusagen die "Netiquette" (wie man zwischen den Menschen im Internet verhalten soll) erklären.

Außerdem sollen die Lehrer auf die Privatinformationen der Studenten achten. Bevor man beim Unterricht die Themen wie Familie oder Herkunft besprechen will, muss man an die Gefährlichkeit denken, dass man die Privatinformationen der Studenten berühren könnte, die andere Leute besonders im Internet nicht wissen dürfen.

(北海道大学非常勤講師)